

評価基準

評価項目		提案書類	評価の視点・判断基準	配点
組織評価	履行実績	業務等実績調書 (様式ウ)	令和3年4月から本業務公告日までに完了した業務について、同種業務の実績がどの程度あるか、件数だけでなく、実績の内容・成果が本業務にふさわしいかを総合的に評価する。 ※同種業務とは、企業の経営支援又はそれに類する業務をいう。 10点:同種業務の実績(内容・成果)が5件以上ある 8点:同種業務の実績(内容・成果)が4件ある 6点:同種業務の実績(内容・成果)が3件ある 4点:同種業務の実績(内容・成果)が2件ある 2点:同種業務の実績(内容・成果)が1件ある	10
	実施体制	組織調書 (様式イ) 配置予定者調書 (様式エ)	(1)業務に応じた担当者の配置や構成が明確な場合、(2)業務に応じた確かな資格や経験等を有する人材を担当者として配置されている場合、(3)長崎市内に担当者が常駐する等、迅速・柔軟に対応できる場合等を総合的に評価する。 5点:(1)~(3)のいずれにも該当する場合 3点:(1)~(3)のうち2項目該当する場合 0点:(1)~(3)のいずれにも該当しない場合	5
担当者評価	主任担当者及び担当者の同種業務の実績	配置予定者調書 (様式エ)	令和3年4月から本業務公告日までに完了した業務について、主任担当者及び担当者の同種業務の実績がどの程度あるか、件数だけでなく、実績の内容・成果が本業務にふさわしいかを総合的に評価する。 5点:主任担当者及び担当者1名以上に同種業務実績が5件以上ある 4点:主任担当者及び担当者1名以上に同種業務実績が4件ある 3点:主任担当者及び担当者1名以上に同種業務実績が3件ある 2点:主任担当者及び担当者1名以上に同種業務実績が2件ある 1点:主任担当者及び担当者1名以上に同種業務実績が1件以下	5
実施方針等評価	業務理解度 ※	業務の実施方針 (様式カ)	本業務の目的、内容の理解度を評価する。 10点:本業務の目的、条件、内容を十分に理解している 6点:本業務の目的、条件、内容のいずれかにおいて理解不足である 0点:本業務の目的、条件、内容のすべてにおいて理解不足である	10
		業務の実施手法 (様式キ)	(1)業務実施手順を示すフローの妥当性が高い場合、(2)業務実施のスケジュールの妥当性が高い場合に評価する。 5点:(1)、(2)のいずれにも該当する場合 3点:(1)、(2)のいずれかが該当しない場合 0点:(1)、(2)のいずれにも該当しない場合	5
提案内容評価	啓発セミナー ※	企画書 (任意様式)	脱炭素を単なる環境対策としてではなく、経営課題の解決や企業成長に結びつく戦略としてわかりやすく提示できているか。また、専門用語に偏らない平易な表現により経営上のメリットを効果的に訴求し、これまで脱炭素経営に関心のなかった事業者に対しても関心喚起と行動変容につながる提案となっているかを評価する。 15点:非常に優れている 12点:優れている 9点:標準的である 6点:やや劣っている 0点:劣っている	15
	伴走支援 ※		専門技術・知見に基づく現状分析を適切に行うとともに、各事業者の経営状況や課題に応じて脱炭素経営の手法を活用した具体的かつ実行可能な支援内容・手法を提示できるか、また、事業者の継続的な取組を前提とし、成果創出まで見据えた実効性の高い提案となるかを評価する。 20点:非常に優れている 16点:優れている 12点:標準的である 8点:やや劣っている 0点:劣っている	20
	実践事例の共有 ※		脱炭素経営に関心を持っているが実行に至っていない事業者に対し、取組効果や経営上のメリットが明確に伝わる実践事例が提示され、他事業者への横断的な展開可能性を有する提案となっているかを評価する。 10点:非常に優れている 8点:優れている 6点:標準的である 4点:やや劣っている 0点:劣っている	10
参考見積	業務コストの妥当性	参考見積書 (様式オ)	業務規模と大きく乖離がないか等、業務コストの妥当性について評価する。	20
合計				100

●「※」の評価項目はヒアリング時に審査する。

●合計点が最も高い者を受託候補者として特定する。合計点が最も高い者が複数いる場合は、「提案内容評価」の合計点が最も高い者を受託候補者として特定する。さらに、その複数者の「提案内容評価」の合計点が同点となった場合は、参考見積金額が最も低い者を、さらに、その複数者の参考見積金額が同額であった場合は、くじにより受託候補者を特定する。

●「提案内容評価」において、いずれかの項目について委員全員の配点が0点のものがある場合、または委員全員の評価の合計点が満点の2分の1未満の場合は、受託候補者として非特定とする。